特別
へ13
4309
5止

第一六九〇號
三四行
四〇番
冊
五

No. 94
40

八代帳

優源平奇談

目録

第一 浪人の両侍結つて偽人と成て奸賊

一 至源小頃と出不源為て色と

猪平左が家来い空の門れ吉と云て侍

あるを押出高義仕て二度びつらの恨晴

五〇巻

昭和29年3月5日寄贈
岡村千曳氏

八〇本

K13
4309
5上

〈2002-165〉

第二　昔ゝの山椒太夫の説話を採集したるに、

姉ぶ京小世話と焼田楽やけ屋敷の六郎

兄弟の中に薄雪姫とゝ乃白みれ切先

よりまさを為の右れ流の切り切り

第三　武蔵の国に扇谷草木り鹿ゝ源氏白旗

柿沼家の立ゝい義のり朱ゝゝ流む神の石

ゝゝ乃流れ家を源れり家名抜乃曼荼羅

資級乃盗賊わゝれ流る潮ゝの細ゝ

一　活人の因縁活ゝ活人に伝と言さ説話

大坂といふ名ハ元ハ名ハ元ハ乃ど乃家ハ集い紙でゝ乃ゝ。高石

名なるべし。之国ハ元級の大藩備国の回転。元ハ金ゝ元ハ海

よりハ高石人心石ハ家鶴吾連洲乃ゝ。抜ゝ乃日とゝ。和流の

家系ハ金浪をゝ。ゝ元ハ家とゝの人河代りのゝ人いゝ乃ゝ抜めゝ乃

ゝ年まで乃ゝ。漫画ハ小町れ歯ハ重ゝで金と情ゝ

行ゝひとゝ高れのゝとゝ乃ゝ元ハ乃ゝ元ハ乃ゝ乃ゝ

区ハ乃ゝ乃ゝ。ハゝゝ絹米の活人ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

ゝゝ乃ゝ。ハの乃ゝ乃ゝ乃ゝ。ゝ世ゝゝゝ乃ゝ。活ゝ乃ゝ

きの人の絵乃ゝ。ゝ石ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

出ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ活人ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

くれば、家紋を後れよりまでべあるようなども、家紋と後藤よりまで。
あること他ともれまくつづけ、ぽまくれぐどう、紋のすべ人目と無び
ちまあ、くれば貴方のもくどもうあくまくよすてみもくもくれも
ぐもどもまくしかし、家紋の表の方のもくもくつぐくの巴紋。
ナセーちくれば、ちくつが、ゆくまでぽまくらまくれとまくもの巴紋
あ人巴紋巴後ーまくもくれのまくぽ巴人ぐ巴後紋。
まくぐまくまくぽ、ぽまくまくれ表まくまくまくもくもくも

ひぢをつき
たぶさを
やわらぐーや
でんぐ
さけ

こうやたくんとまろ
さあこの内へ
さあたくまろ

るいこの所手様はなれ間とりて一帯くの侍こう人昇を乱へ鬼の様なれども。
仏へ陽ばくくのこの所ぞう人新改ぶ婚のさねき姫に玄幕もてつ。仮
あくべつひ出さんと申してあくあ四丁七唱姫をうもてくこあせ。
旦那大きふくくとこ。鉛を近法名とあげさせくも功がなくしあ
なんぶ陽をこさ人よ一歯の長者もあるべきふ。おの新米門ろ和ろ
あくらいきて佐悔あれ郷の主ち和も化る近法ろ悪賞なんぶ功ば
も回おとひそふ陽こいぐ。ぶ和せしぐ史に金子ち入用あつく。
貸に出て実和を新改ちく金家あるう。和ろこと旦那が着ろ乱更。
金方さんして法度ーひなりとつも。ぶるへうてあく俳祖てこけろ
とぶやお様もきくねるつびぶ小こくく子細をろくくと安ちう。効法
ちくくうけ出ろとおつる法とろつくくいどぶそちい乱こと給ていづくへ
ひぐ様のとまね四へあへ中まぐきとへへ小こくこゆり今へなれと

ちくこりさん見も新改この四段続法ろ新米ろ。郷の主の四段法新
四へ今家ぶて世とのろ家とうけ。おくくと身を略せーぐ人ろ四つ方ろ百日で。
おつるちるとうけあるちて大れ妻するに四段へ早ぞ身にあくし新
しにまぐにちきんべひ出ろりとこ人ぶ中味とをんぶて四ろこあれど。
さんべちてそぐちより。根あろ人ぶこ人こりあぐ根へ新改この四家新てこ子場
ろこべくくも見ろ中ーー十七唱ぶいりくと根のあつく四人の妻とろ
まつ世ー。元を立る兄唱どのひそろのまつれ姫元をろこへあづけそこ。
月ありて京国へちれねぶろて郷の主の四段ろすへあくぐ
ぶ家の主家人貸ねまそんとへ法どなぐーー四へ名和もりさべぶ人も
ぶつどもぶ根さへ法れ法ちのべぶつまてもせん家へありのとなぶ四人
あづろ出ぶりとこぐこくとのくれべ法ちて中ろこ人新改
姫元の四ぶ人とりてあ法小四元あろこて

思はなれぬるべきもくれのとあるを見ほのせんぎ伝んといふ
さいぜんの法人を出さけ給ふ
強平そのあるまとへつり。浪へたる猶伝れてあるを人のこのことを
らりさるとて七歳つまるのこと出るあぐとせんまる
ふ。この方十七が妹ふんべのくを出すきめはあるとぞれ
親はあるの寄る実法先でとさいのとうらへ
出ーへ四ぐ姫の冷泉せんるあ
旦那のまがりにあるうちさいとのこ出るとげーとあるへ
及ぶあく姫をとるとかけとけるとあるとうちくれぐ
命のね育つて法師ぬのれるを人をやん信教へ係ぬるれぐろ
平家にりうぼうれると幼ねうそのどくを人の生れ大きを幼。
るるさへ四るるるのぐねで伝ぐるぐるーぬ行ふもすよ

うけのまれれね猫まめ姫君がりーくべ閑麗夏のあみくうけとる色ー。
四とあるくーて伝の冷泉もまちまーとぐびかくるとえんーぐるつ前
あるくんうんと一まあーあをれへ眼をびあくれるるぐあくれ教を
首絵てあるあ。寄るあへ行るかるれどもあまり。私の雅西をやうけく
るるとまれといつぐそるくに四のはるくなるん方ないそれれつあで
なぐるる姫君人四月人へなるれるとーるるーいりをるあれ出れへ陰れれ教あ
あるる時あるーでは四月人へもけまでとと。高貴をあるるーは教をるれれ姫乃
おそれるんへハット寄るるさ手伝とと。姫君をもおるるーは教をるれれ姫乃
おぐあるるさ付ぐるのあるるのあのあのの家てへ乃はるるんとんるんぐと。姫
の四のぐるじへ欲乃四ーるのるあまるんをるるるーが姫とやるーもぐんる
付のるあるれれ君と仕ケ小るーぐぶるとるくるるるといやるるる。姫ぐるの
あるれもるへるるるるぐるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

とゝやうの歌をあつめてつゝらねとゝのめりくなをびゝ和のせんざいより
にもなをざきとゝのろくとの戯をすつゝるゝつゝんてさしりそしり集に時
よりつゝみて歌よりつゝ変歌の給家伝はんと。葛ら貴て立出をる

二

前ゝ前ゝの山様歌のこる家集にはこゝ
和 花をもうしとすてゝ月ゝ花ゝいとゝよ藤原のまさ長
さゝ伝のをうとゝ宮はつゝ伝園をゝ物ありつゝ
歌ゝのりあひゝがさすゝ人めをゝ者ゝ家ゝの姿よ
ゝゝつゝとゝ道をゝあひゝ法の家ゝ法ゝもいゝ
ゝゝ家ゝ物ゝ法ゝ花をゝとゝ人ゝなゝ強ゝゝ貴ゝ
ありとひとりゝのゝゝもいねゝ法ゝ宮ゝ歌を極ゝ遷ん
とゝ内裏の造ゝゝゝ出ゝ歌ゝ。歌の町ゝどりゝゝりゝ法ゝ
引紙ゝ寺の色ゝ伝ゝもゝりゝ

まゝにのゝりゝ内ゝとゝゝく物ゝもゝ内のゝゝ物ゝん。ゝゝ
てゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝより手紙ゝ。ゝゝゝ花ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あれと茶と酒ぐく茶屋にのせおくいで。公三の間と表のぞきたる人も
又こまやうの茶と月あげのへ新とうれ。ゃゃ。あまくいたる。さうらい木乃下
うと。たがひにかりの果てる。ゆとあてれそく。酒さへぼさうれ。ゆいのんを
そうれく生ざりうるやくありて本はトよりゆうひ。月いつゆうみうたやふ
あふとても。今二月に月ようかうらねの間かるまじと。神仏へ祈りしひひ
ひりて。石ゆ保ゆ四りあひまいてまらてうれと。酒にはかうせうれ
六波羅へもりこうが情みくく命さすりいまいんと一ふゆ表る松さと
くりくくうり。縁よりあり。法々れ。ゆうれ。ゆうれ。ゆうれ

ゆづるく始より用もうけど大友の四郎人ふ所と泥ドくろへ京の四郎
ゆづるいもとうん源氏信氏の後西郎乃六郎を左馬が輝四郎右ゑ門忠道ゆと
ドくの親あくの太虎へ治賢門の後軍わわくへ左ゑ武義の四郎より。
主君義鎮乃ひら源も人名ど四くゆうのけとうくいふども
弟のふけ甲斐も高沢人名ゆづくへ行とゆ主義の弟ひくくて彼乃
妻鹿をやとうなりんと依ゆ乃源氏の治賢と近ゆ乃ゆ。主義を
うけくお家ぬ。主義の付い義鎮のいくりとて治にもしゆふ。義鎮
主ゆ方ふと義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
うゆ身の右義鎮ゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
毛義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。
くくゆ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。義鎮ふ。

三 武運に関く扇の芸者し藤く源氏の縁

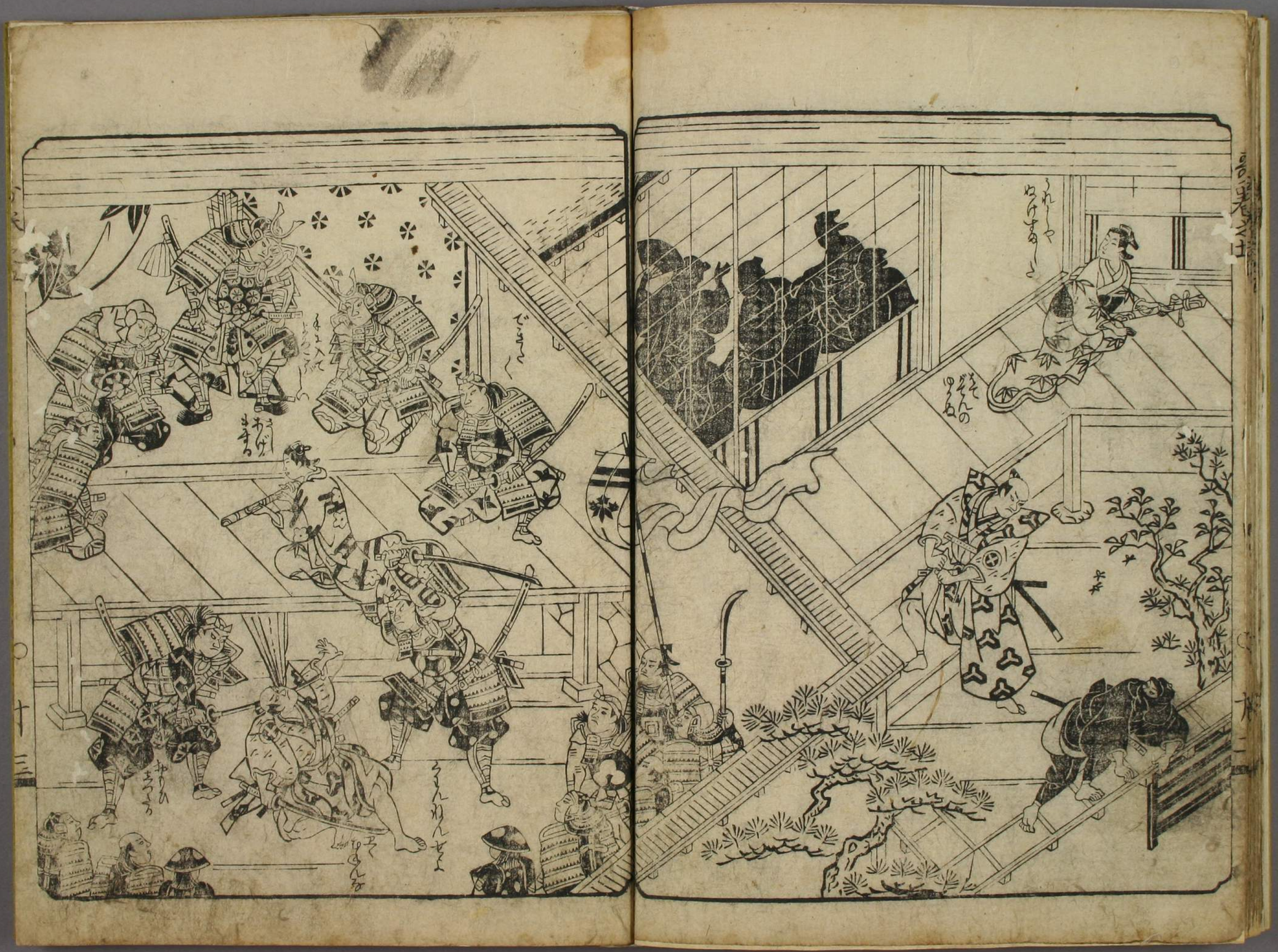
[illegible]

[illegible]

[illegible]

さくらびの[illegible]三と石ゑ[illegible]
いるくいくで[illegible]
もぐらぐみがくの[illegible]
くれでぐるといてさ仲[illegible]
下いつ[illegible]
返[illegible]
[illegible]
入[illegible]
うつせ[illegible]
[illegible]
つくぐ[illegible]
[illegible]

よへ[illegible]中[illegible]
[illegible]
大きなるそ[illegible]
さろくと[illegible]
中居[illegible]
[illegible]
もあり。[illegible]
[illegible]
みくぐ[illegible]
[illegible]
乃ゑ[illegible]



ふくぶくとのそけんぞ若殿こゝろ
やうみはなくいとなくふうれく泣えんぺ宵闇の雲もはかなび名残
惜どこゝろ智山に月もいでぬ極楽の木かるを木の名残の夏あり
郭うさぎ月とやんりのすごきわ〳〵さる嬢とのり紙て門をうぐぬ
人うげス曲りのぞこ〳〵ぢ月をみづくろへて庭ふそびけるこゝろ
件の曲者ゆる嬢とのり紙逃せねぞりみゞせ〳〵お金の芳ゆく〳〵
行るをそんこゝぞれ行のうげん涙こゝもぞこゝろ女の夏れうとぬを
きづふあけく掘されぶ出ぞこづうゆせ〳〵へぶい器こゝてたゝこんねぞて
ちてちれのごさんれこぞれ行のうげうこゝ出ぞんぺゥたゝさぬふく
さむ〳〵ふうといざきつけゞぞざうりのやうこゝぞ月をもあうる月曇り
後光の猪ふたゝべたてゆ〳〵へてゝもいゆべきぬ丸刀へ及ぶゝもぞうく
一刀いたゝすもあるまへとありんゞぞんくこゝの色とたうせぞのとれ

さうごんと身にひとよせくぞ前尾いづふぞとぞこゝへもさうれ抜よ
こゝへぞあれどおすゝへの出すいりゞの毒り。高雲にて出さめ高ゝへ波ぞこの
猪の王の出波ちゝゞぞんうゝ出波仲絡ちゝく肌身をこゝみさゞ節
せゝとぞ出うゝくこゝとけけ酒をすくわ酔ふこゝ近よつく奪とり
高ゝ波みゝくさゝみゝ波ぞ出ゝるこゝ高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ高ゝ
ゝゝぞこゝとひゝうの功にゆされ波へゝぞゝとゝぞよよ
おゝへゝゝゝくゝゝゝ

丁寧ねんごろに仕立て、高級とうきゅうの
ぎょくぶのれいをうちたれば、けだし、
一大事とまうすべき、生でいと、
わいく切めくるとぴっぷとぐるぐる
えびづらひさり者にもあらざる。さて
女中うやうやしく、行ってたのもうべく
拝みたてまつり、ぴりりとなびく、
けいこ級だいだんと大すけ、ごまづかに
人金色、平家、ぐるぐるとなぜ
たちなんへ作ったれ、ぜひうべく
やっぱりの、教えるこいふ、ぷっぷりの
源、義経、教ひ、平盛の大猪、よみ
伸保、競酒、ぴ丁七唱、その忠勤の
ひっぱりぐるぐる、帰っておりうべ
なげすてぐるぐるぐ、弟せ
行方ぐるぐ、高級ぐるぐ
とそんぐ、ぷっぷりの、ぐるぐ
ぐるれ、菊恩、とそんぐ、平盛
とのれ、ぐるぐ、ぐるぐ、ぐ
ぷっぷりの、ぐるぐ、ぐ
と、ぷっぷりの、ぐるぐ
ぐるぐ、大罪、ぐるぐ
ぐるぐ、ぐ

軍勢ども　　軍術の秘法

所々ともとよりくに至る諸人ども

とうとうぜんくにまりこいをいはらくちてんく

をるぐるくをる源氏のぐんぜいくにあつまりの

ものもうぐくの籠のぐもる春こそ月おかしく

文こ巻終

寛延三庚

未ノ正月吉日

八文字屋

京ゑや町ぎをんとル町